

## 強アルカリ電解水 農業活用

# Eプラン、自治体に提案



8月には茨城県河内町と包括連携協定を締結（松沢民男社長と野沢良治町長）

## 装置貸与で連携に弾み

【千葉】Eプラン（千葉県船橋市、松沢民男社長）は、強アルカリ電解水の活用を農業で進めるため、地方自治体との連携を推進する。農地と作物に散布することで、生産性と作物品質の向上や無農薬栽培につなげる。近く都市農業の研究・調査を手がける千葉県船橋市の農業センターで同電解水が導入される見通しとなった。自治体との連携を進め、1年以内に全国10〜20カ所で同電解水を導入した農業を始めた考えだ。

Eプランは2021年の農家にも同電解水の年に船橋市と大規模災害の発生時に、強アルカリ電解水を供給する協定を結んだ。これが農業での活用に発展した格好で、近隣

る講座の開催が含まれている。

果がある。

同電解水を生成する装置を無償で貸し出し、地方自治体との連携協定締結に弾みを付ける。洗浄・除菌・消臭用など住民生活の質の向上から始め、農業、さらには同電解水の鮮度保持機能を生かし、出荷する際の作物やカット野菜の洗浄などにも導入を進める。これにより農業と関連産業の高付加価値化に結び付ける。

同社は水素イオン指数（pH）12・5の同電解水を生成する装置を開発。同電解水の成分は99・83%の純水と0・17%のカリウム。生成過程でも酸性水と塩素ガスなどが発生しない一方で、強力な洗浄・除菌・消臭・防錆効果がある。農業では同電解水を10〜100倍に希釈して使用する。同社は同電解水の生産性・作物品質の向上と病害虫駆除の有効性を検証する実証実験を千葉県で実施。イチゴのハウス栽培で作物品質のアップなどを確認した。これらの有効性のメカニズムを解明し、エビデンスを確立するため、岐阜大学と産学連携も進めている。

同社は同電解水の生成機を中心に金属加工や食品、ビルメンテナンス・介護、ペット業界から受注実績がある。今後は農業にも供給し、同電解水で土壌改良による作物の高品質化や病害虫駆除、無農薬栽培につなげるなど用途開発を進める。